

# 明治前期の外務卿官舎と太政大臣官舎について

日本建築学会計画系論文集/ No.621/ pp.187-194/ 2007年11月

正会員 藤 木 竜 也 君

本論文は、明治維新によって必要となった近代政府高官の官舎について、建築図面等の資料を掘り起こし、整理した、近代日本建築史の領域の論文である。それは当初は旧大名屋敷を転用していたが、やがて国家的な威信のために本格的な洋式建築を新築するに至る。その際には洋館と付属の和館を併設する特異な構成を示す。そのような過渡的な時期の実態について、本論文は詳細な資料整理を行って、見落とされてきた転換期の現象を明らかにしている。一般に洋館に和館を併設して、応接や公的な目的のための洋風空間と、私生活ないし使用人等のための和風空間を廊下で結ぶ特異なプランとする事例は知られてはいたが、本論文はそのような構成が試行錯誤を経て始まる経緯を明らかにしている。それは和洋の文化をいかに調整し、融合させていくかという問題に直面した明治初期日本の建築界を考察する上で貴重は研究成果を提示しており、近代日本建築史研究に少なからぬ貢献をしている。